



4名のマイスター：左から藤島春実さん、内山麓さん、糸瀬傳さん、橋本敏さん

層図れることになりまし。

今年認定を受けたマイスターは、橋本敏さん（56歳・峰町志多賀）、藤島春実さん（66歳・上県町瀬田）、糸瀬傳さん（59歳・上対馬町小鹿）、内山麓さん（75歳・厳原町久根田舎）で、それぞれ10年以上の栽培経験年数を持ち、ほだ木一万本以上を所有。乾しいたけ品評会で県知事賞又は林野庁長官賞以上の受賞経験を持つなど、厳しい認定基準をクリアした生産者の方々です。

対馬・原木しいたけマイスター制度
優秀な技術を持つしいたけ生産者をマイスターとして対馬市が認定し（期間は5年）、他の生産者の技術指導を行ってもらうものです。指導にかかる日当や交通費などの経費は対馬市が負担します。18年度の指導実績はのべ18日間で、主な指導内容は原木にしいたけの菌を植え付ける「植菌」や、菌を植えた木を積み上げて、菌糸がよくまわるようにする「仮伏せ」でした。

しいたけ生産者の皆様へ
たい方は、対馬市農林課
さい。マイスターをご存じの方は、直接お願いしても結構です。

対馬・原木しいたけマイスターからの生産指導を受けた
0920(53)6111又は各支所地域振興課までご連絡くだ
さい。マイスターをご存じの方は、直接お願いしても結構です。

高品質のしいたけづくりを指導 「対馬・原木しいたけマイスター」新たに4名を認定

基幹産業「しいたけ生産」の復活へ向けた取り組みの一つとして、昨年に続き対馬市は「対馬・原木しいたけマイスター」として新たに4名の生産者を認定しました。2月4日、対馬市役所で認定証授与式が行われ、杉で作られた認定証とユニフォームがそれぞれのマイスターに手渡されました。

対馬空港の愛称 「対馬やまねこ空港」に

対馬空港愛称検討委員会が決定



空から見た対馬空港

空港をより身近に親しんでもらおうと対馬市で対馬空港愛称検討委員会を設置し、検討していた対馬空港の愛称が「対馬やまねこ空港」に決まりました。

一般公募には県内外から1606件の応募があり、その中から11月中旬に検討委員会で10候補を選考。その後、市内の小中高校生による投票（総数3195票）が実施されました。「対馬やまねこ空港」は2位の「対馬パール空港」（540票）を大きく上回る954票を獲得。この結果をもとに1月21日に検討委員会が最終選考を行い「対馬のイ

メージにふさわしい」、「読みやすく、親しみやすい」、「大多数の支持がある」などの理由で、「対馬やまねこ空港」の採用が決定されました。愛称の今後の活用方策は検討委員会での検討し、関係団体の協力を得て時刻表等をはじめ、様々な手段で愛称を広く普及させ、空港と対馬の知名度の向上を図ります。

また、採用作品作成者（107名）の中から抽選で選ばれた松尾信一さん（対馬市）には、表彰状と副賞として対馬長崎ペア往復航空券が贈られます。



卒業記念にドングリの苗木を植樹

～比田勝小6年生～

人と自然が共生する森の再生へ向けた取り組みが行われている「舟志の森」（上対馬町）で2月22日、卒業を控えた比田勝小学校6年生30名が記念植樹を行いました。

児童たちは、4年生の時にツシマヤマネコの危機的状況と保護の取り組みについて学習し、「ヤマネコを守りたい」との思いから対馬産ドングリの苗木づくりを行い、60本の苗木の世話をしてきました。

児童たちは地面に穴を掘り肥料を蒔くと、大切に育ててきたドングリの苗木を1人2本ずつ植え、シカなどの被害から苗木を守るヘキサチューブと呼ばれるプラスチック製の保護材を立てました。

チューブには、児童の名前といっしょに「早く大きくなってね」「ヤマネコが増えますように」などの願いが書かれていました。

『船っ子』学習発表会 ～大船越小学校～

2月8日、大船越小学校体育館で『船っ子』学習発表会が開催されました。1年生の「こんなことができるようになったよ」、4年生の「つるのおん返し」など一生懸命練習してきた歌や劇などが披露され、会場に集まった大勢の地域の方々から盛んな拍手を受けていました。

また、準備、進行などにもそれぞれ児童が割り当てられ、学校が一丸となって行事に取り組んでいる様子が感じられるとてもすばらしい発表会でした。



峰町にマナヅルが飛来

2月19日、対馬市峰支所（峰町三根）裏の休耕田に28羽のマナヅルの群れが飛来しました。毎年この時期には、日本で越冬し北へ帰るマナヅルの集団が上県町佐護に立ち寄りバードウォッチング愛好家の目を楽しませてくれますが、峰町に飛来するのはとても珍しいことだそうです。羽根を休めたツルは、午前8時半頃に集団で飛び立って行きました。



夜空に映った 漁り火の灯 光柱現象を撮影

2月6日午後8時半頃、巖原町総合運動公園（久田）で撮影。

薄曇りの夜空に現れた無数の白い光は「光柱」と呼ばれ、上空の水分が凍りその結晶に強い光が反射して起きる現象と言われています。

この日は気温が低く無風で、海上には多くの漁船が漁に出ていたため、漁り火が反射したものと思われます。この日の夜空には30柱以上の光柱が確認できました。暗い夜空に天に向かって伸びる無数の白い光は、なんとも幻想的でまるで小さなオーロラのようなものでした。午後7時ごろから確認された光柱は、午後9時過ぎ頃まで夜空に浮かんでいました。

第4回 対馬市民美術展

市民の力作 63点を展示



上対馬総合センターでの様子

市民から広く美術作品を公募し、市民の芸術文化活動の振興を目的とした対馬市民美術展（対馬市教育委員会主催）が、上対馬総合センターで1月23日からの5日間と、対馬市交流センターで1月30日からの5日間開催されました。

今年の美術展には、市内の42名（厳原15名、美津島7名、豊玉4名、峰3名、上県9名、上対馬4名）が出展した洋画15点、書10点、彫塑工芸25点、写真13点の合わせて63点の力作が展示され、来場者を楽しませました。

期間中の来場者数は、前期191人（うち小中校生39人）、後期758人（うち小中校生107人）の合わせて949人でした。

文化財防火デーに消防訓練

国分寺と梅林寺で実施



国分寺での訓練の様子

対馬市消防署と対馬市消防団厳原第3分団は、1月26日の「文化財防火デー」に合わせ、同日午前9時から厳原町天道茂にある市指定有形文化財「国分寺の山門」で消火訓練を行いました。

近隣の民家から発生した火事により延焼のおそれがあるとの想定で行われた訓練では、通報を受けた消防署員と消防団員が、機敏な動作でポンプ車や消火栓からホースを延長し放水しました。

「国分寺の山門」は対馬随一の四脚門で、朝鮮通信使がこの門を通り接待を受けるなど、歴史的にも価値が高い文化財です。参加者たちは貴重な対馬の宝を守ろうと、真剣な表情で訓練に取り組んでいました。

また翌日27日には、美津島町小船越の梅林寺で、消防署豊玉出張所及び消防団美津島第8分団が参加し、消火訓練を行いました。

第2回 こころのふれあい祭り

精神障害者の日頃の活動を展示、発表

対馬で生活している精神障害者への理解を深めてもらおうと、対馬地域リハビリテーション広域支援センター主催による「第2回こころのふれあい祭り」が2月10日、厳原町中村の半井桃水館で開かれました。

会場では、市内の3施設（上県町の地域活動所「さわやか」、厳原町の「きらり」、いづはら病院内の「デイケア」）で利用者が軽作業やレクリエーションなど楽しく活動している様子のパネル展示や、作業で作成した木工品、革製品、日用品などの展示即売会が行われました。長い時間をかけて丁寧に作った通所者の製品は、暖かみがあるととても好評を得ているとのこと。

午後からの体験発表会では、通所者が引きこもりとなった原因や施設に通って目標を見つけ頑張っている活動の様子などを会場の市民の前で発表し、温かい拍手を受けていました。また、会場内ではフリーマーケットも開かれ、多くの市民が掘り出し物探しを楽しんでいました。



通所者による木工製品の展示



体験発表の様子